

C型ウイルス肝炎地域連携推進事業（平成29年度～）

目的

○地域連携パスを運用し、C型肝炎ウイルス検査で陽性判定となったが継続的な受診をしないままにいるキャリアを確実に掘り起こし、かかりつけ医から肝臓専門医療機関に確実につなげる。

○肝臓専門医療機関による治療後も、定期的な観察を続け、治療後の病態悪化(肝がん発生)があれば、早期に治療につなげる。

○C型肝炎ウイルス陽性者の早期治療によるウイルスの排除を目指す。

○治療後の肝がん発生の早期診断・治療を図る。

具体的方法

○肝疾患診療連携拠点病院に地域連携パスの運用を委託

- ・拠点病院にて、地域連携パスのフォーマットを作成
- ・拠点病院が地域連携パス協議会を開催。各地区医師会に対し、地域連携パスの運用を周知
- ・拠点病院が、連携パスの項目を集計(連携パス運用数・発がん数等)、協議会にて定期的に結果報告

診療の流れ (イメージ)

➡ : 地域連携パス等の流れ

C型肝炎ウイルス	陽性発見	インターフェロンフリー治療中	インターフェロンフリー治療後の継続観察	継続観察後
期間		3か月(一部6か月)	5~20年間	
肝臓専門医療機関		血液検査(2週間毎)・処方(1か月毎)	血液検査・画像診断(半年に1回)	異変がみられなければ終了
かかりつけ医療機関	生活習慣病等の診察(月1回程度)	生活習慣病等の診察(月1回程度)	生活習慣病等の診察(月1回程度)	生活習慣病等の診察(月1回程度)

確実に肝臓専門医療機関での治療につなげる

 病態悪化(肝がん発生)があれば早期に診断し治療につなげる

↑ 自らの医療機関で肝炎ウイルス検査を実施(または他医療機関で、肝炎ウイルス検査を受検したことを患者からきく)

地域連携パスの運用状況

東京都・拠点病院

連携パス様式検討

4月上旬～下旬

拠点病院

連携パス印刷・ホームページ作成等

5月上旬～下旬

拠点病院主催

連携パス協議会(地区医師会向け) 6月下旬

東京都主催

説明会(肝臓専門医療機関向け) 6月下旬

連携パスの運用開始

7月1日開始

拠点病院→肝臓専門医療機関→拠点病院

連携パス追跡調査の実施

12月1日現在で調査実施

拠点病院

連携パスの集計・報告書の作成

12月～3月

拠点病院主催

次年度連携パス協議会にて報告
(地区医師会向け)

拠点病院

郵送による報告
(肝臓専門医療機関向け)

<実績(7月～11月)>

○登録数

573人

・新たに肝臓専門医療機関につないだ陽性者数

64人

・インターフェロンフリー治療後のウイルス排除数

422人

・ウイルス排除のうち肝がん発生数

15人